

来月開校 沼津、浜松の小中一貫校

静浦小中一貫学校開校に向けて

静岡新聞三月十日付け(夕刊)

「本を身近に」図書室充実

沼津、浜松両市に4月、それぞれ開校する小中一貫校で図書室の充実に向け準備が進んでいる。子どもたちの読書離れが指摘される中、「本が身近に感じられるようにしたい」との取り組み。沼津市立静浦小中一貫校は各階に、浜松市立庄内学園は子どもが登下校で通る1階玄関近くに図書室を設け、本の配列にも学校司書が知恵を絞っている。

沼津市の静浦小と静浦中が統合する静浦小中一貫校。「この本は子どもたちに人気。もう少し見やすい位置に置きましょう」「子どもたちが思わず手に取りたくなるような工夫も必要」。真新しい校舎で2月中旬、学校司書や教諭が段ボール箱

から本を取り出しながら意見交換した。

が並んでいる。

本は静浦小と静浦中から計1万6千冊を運び込

んだ。多くの子どもが行き来する2階には読みやすい小説や物語を置き、

授業での利用頻度が高い

自然科学の本は表紙を正面にして並べられる書架

に置いた。作業に当たる

学校司書の山本泰子さん

は「子どもたちがワクワクする本の並びを開校ギリギリまで考えたい」と話す。

浜松市の庄内学園は、北庄内小、南庄内小、庄内中が統合して誕生する。図書室は庄内中の敷地に増設された校舎の中。開放的な雰囲気にするため窓を大きくした。

3校から集めた本は計1万9千冊に上る。北庄内小の三津間洋子教頭は「図書室がある校舎は1

校舎で2月中旬、学校司書や教諭が段ボール箱

から本を取り出しながら意見交換した。

が並んでいる。

本は静浦小と静浦中から計1万6千冊を運び込

んだ。多くの子どもが行き来する2階には読み

やすい小説や物語を置き、授業での利用頻度が高い

自然科学の本は表紙を正面にして並べられる書架

に置いた。作業に当たる

学校司書の山本泰子さん

は「子どもたちがワクワクする本の並びを開校ギリギリまで考えたい」と話す。

各階や玄関近くに設置 学校司書、並べ方に知恵



本を書架に並べる作業に当たる山本泰子さん(左)ら

＝2月中旬、沼津市の静浦小中一貫校

4年生の教室が入る。低学年で本に親しみ、学年が上がったら自然に本を読む習慣が身に付くようにしてほしい」と思